

目 次

挨拶	1
挨拶	2
話題提供 地域から1	4
地域から2	4
地域から3	5
地域から4	6
意見交換会	7
挨拶	16
資料1：日程・プログラム等	17
資料2：アンケート結果	18

金沢大学 タウン・ミーティングin羽咋

総合テーマ 「地域と大学、連携する未来」

日時 平成18年12月1日(金)午後7時～午後9時

場所 コスモアイル羽咋

挨拶・話題提供

橋本 哲哉（金沢大学理事・副学長・社会貢献室長）

地域に密着した活動。金沢大学の取り組み

今日は、金沢大学、羽咋市の共同企画のタウンミーティングに非常にたくさんの皆様に集まっていたいで、心から感謝申し上げたいと思います。

羽咋市では、神子原米をはじめ、いろいろ意欲的な取り組みをしていると伺っております。このタウンミーティングでは、単に意見交換するだけではなく、その中で出てきた皆さん方の要望とか意見をなるべく大学に取り入れて、実現していく機会にしたいと思っております。

昨年、一昨年と奥能登で開催したタウンミーティングでは、奥能登には高等教育機関がない、ぜひ、金沢大学に奥能登に出てきてほしいというご要望をいただきました。去年はちょうどタイミングよく三井物産環境基金の方がお見えになっていて、「では、金沢大学が奥能登に拠点を作り、そこで一踏ん張りしたらどうか」と声をかけていただき、ご援助をいただくことになりました。そして、能登半島先端にある旧小泊小学校をお借りして、サテライトを開設する運びとなりました。これは一例でありますけれど、伺った地域の皆さん方の意見をなるべく取り入れて、大学として貢献していきたいというのが、大学法人化後の新しい姿だと受け止めていただければと思います。

金沢大学は社会貢献について幾つか目玉を持っています。法人化を意識して、金沢大学社会貢献室を作りました。そして、その拠点として、角間の里という記念館を建てました。これは、白峰村（現白山市）に保存されていた築300年の古民家をいただいて、移築したものです。この建物のある金沢大学周辺の里山では、地域の方々にも参加していただいて、「角間の里山自然学校」という活動をしています。そして、大学としてはちょっと他にはないようなこの建物を持ったために注目していただいて、法人化の一つのねらいである外部的資金あるいは競争的資金を得て、おかげさまで順調な活動をすすめています。

また、この秋には、この活動を活かして、「能登半島・里山里海自然学校」を立ち上げました。このように地域に密着した活動が、我々の行っている社会貢献の一つの姿であります。



金沢大学と地域をつなぐ

タウンミーティング

in 羽咋

テーマ「地域と大学、連携する未来」

参加無料

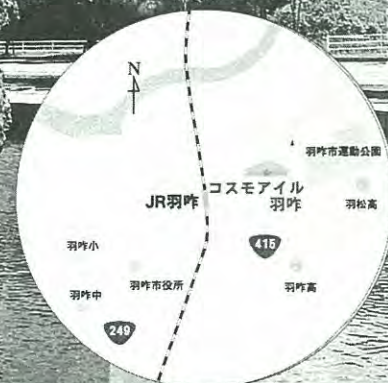
参加申込みは必要ありません。
当日、会場下さい。

日時 平成18年12月1日(金)

午後7時～午後9時

場所 コスモアイル羽咋

住所：石川県羽咋市鶴巻町免田25番地
TEL：0767-22-9888



「地域に開かれた大学」を目指して金沢大学が地域に果たす役割を考え、地域住民と語る場として「タウン・ミーティング」を実施してきました。平成14年度以降、輪島市、加賀市、鶴来町で開催し、大学へのさまざまな要望を聞くことができ、それを機にいくつかの連携が芽生えています。

今回は、自然や文化資源に恵まれた羽咋市で開催します。羽咋市の資源を生かし、地域活性化の可能性を実現するために羽咋市と金沢大学の連携を提案します。さらに、さくばらんな意見交換をおして地域活性化への具体的な連携のあり方を探ります。

お問い合わせ先：金沢大学社会貢献室 〒920-1192 金沢市角間町 TEL076-264-5290

主催 金沢大学 共催 羽咋市 「金沢大学・石川県・金沢市」連絡協議会

もう一つは、今のところ金沢を中心にしていますけれど、「地域活性化プロジェクト」を設けて、幾つかのグループによる活動を展開しています。例えば金沢市内で「市民大学院」を開設して、社会人の方に学んでいただいて、例えば論文を書いたうえで社会人として金沢大学大学院に入学していただくという試みもしています。それから、留学生に対する体験学習から始まったものですが、「金沢学」という講義を行っています。現在では、市民の方々の力を借りて、例えば留学生は着物着付け教室で着物を体験したり、学生は地域の方と一緒に太鼓を叩いて石川県の太鼓文化を学んでいます。

もう一つは、「地域経済学」という経済学部を中心としたビジネススクール的な塾を、特に自治体や地域企業とタイアップして行っています。能登においても、興能信用金庫さんと提携して、2度ほど地域経済学を開いています。第1回の能登教室の卒業生の中に珠洲市長の泉谷さんもおられました。そういったことも、大学として地域とのつながりの一つのきっかけになったのではないかと思います。

今日、これから行いますタウンミーティングにおいて、羽咋におけるいろいろな経験を伺いたいと思っています。併せて、大学にこういうことができないかというご要望も率直に伺いたいと思います。もちろん大学に対する辛口のご意見も伺わなければならないと思っておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思っています。

挨拶・話題提供

橋中 義憲（羽咋市長）

地域の財産を発掘し、再認識し、発信する「羽咋イズム」

皆さん、こんばんは。今日は、金沢大学が地域と連携して地域の活性化の具体的なあり方を作るための試みに、本市を選んでいただいたわけです。まず、ご参加いただきました皆様方に感謝を申し上げたいと思います。

私は市長に就任して、11月1日で2年の折り返しを迎えたわけです。今、羽咋市の人口は2万5000人を切っています。私は、この地域が活力ある、元気のある羽咋になるために、地域が手を取り合って広域行政を進めるべきだということを訴えてきたわけですが、そこには若い方々に定着していただきたいと思っています。そのためには、企業誘致も行わなければいけない、企業誘致を行うためには道路をはじめとする社会資本を整備しなければいけないという政策を取っています。

それに加えて、この羽咋地域には大きな財産があるわけです。私は、この大きな財産を見出し、発掘して、そして発信していく、その基本的な考え方を「羽咋イズム」と呼んでいます。毎月の広報の最後のページに、羽咋イズムとは何かという理念と、それを実践している方々を載せています。

羽咋には、埋蔵文化財、建造物、それから絵画とかの文化財がたくさんあります。妙成寺の五重塔、気多大社、永光寺、豊財院等の神社仏閣、長谷川等伯の書画などは本当に価値があるものです。それから、自然もそうです。私どもが何気なく眺めている千里浜海岸から海に沈む夕日、白砂青松を、県外、市外から来た人には新鮮であるということを言われるわけです。いわゆる眠っているという表現はおかしいですが、そういう地域にある財産をもう一度見つめ直

し、そして、羽咋にしかないものを発掘して、それを活性化して、再生していく、そういう「羽咋イズム」に取り組んでいます。

眉丈台地には、植物の北限を示す貴重な植物もあります。私が子どものときには朝ごはん前にまつたけをたくさん採ったのですが、今は下草刈りをしろと言っているのですが、全然まつたけは出てこない。それから、とき草、さぎ草を皆さんはご存じでしょうか。頭があって、葉っぱがあって、しっぽがある小さい花、この白いのをさぎ草といって、ピンク色のをとき草といいます。植物関係もコケ類も、本当にたくさんありました。

それから、神子原（みこはら）地域の皆さんにご協力いただき、神子原米の取り組みをしています。実は3～4日前の読売新聞で、全国の6産地の米、いわゆる魚沼産の米に並ぶブランド米として神子原米が挙げられています。これも、地域の方々ほか、本当にたくさんの方々のご協力をもって今日に来たわけです。これを「山彦計画」と呼んでいます。

次は「海彦計画」ということで、今度は海のもののブランド化を進めています。柴垣・滝谷の岩がき、夏がきは一口で食べられないほど実も大きくて、新鮮な海の香りに満ちています。地元の漁協では500円前後だそうですが、大阪とか京都の料理屋へ行きますと1500円ぐらいになります。これを直接料理屋さんへ出せば、漁師の方も漁協も所得が多くなるわけです。そこで、ほかの地域のものと違うというアピール、一工夫をしていかなければいけないということです。

この神子原米をはじめとする地域の特性を出す事業を始めましたときに、1.5次産業振興室を作りました。一次産業の農林水産業に産物に手を加え、中間業者の手を経ずに直接消費者のところへ届ける取り組みをしようということです。このための市の予算は、去年は60万円です。ところが、国の外郭団体等のいろいろな制度を利用して、例えば神子原、千石に大学の学生が1週間泊まって体験するとか、全国の市場でどういうものが売れているかという調査等を行っています。

そのための予算として、国土交通省地域づくりインターン事業で2か年で100万円、経済産業省の田園地域マーケティング調査事業で17年度は800万円、厚生労働省の地域雇用創造バックアップ事業で600万円、石川県のいしかわ暮らし促進事業で100万円、国土交通省の地域資源調査事業が今年で350万円、合わせて1950万ほど獲得し、それで、1.5次産業、羽咋市羽咋イズムの実践に今取り組んでいるわけです。

しかし、どんなにいいものが地域にあっても、これを活かすのは人です。羽咋に住む私も人間、これが大きな財産です。羽咋イズムのいちばんの根源です。この地域に住む人間が、羽咋の財産、私どもが再発見しようとする財産を活かしていくのです。羽咋ブランドの会、商工会、観光協会、妙成寺を守る会とか、いろいろなまちづくりの関係の皆さんの協力によってこの町が活性化していきます。この人間が連携することによって、いろいろな発想、展開ができるわけです。仕事を動かす、世の中を動かすのは人です。

今日のタウンミーティングにこれだけたくさんの方々にご出席いただいたのも、それだけ羽咋を元気にしよう、何とかしよう、「いや、私はこういう意見を持っております」という前向きな方々がたくさんいるからだと思います。そういう意味で、今日は有意義な会議になりますようお願い申し上げまして、私からの提言も含めたご挨拶とさせていただきます。



話題提供1 地域から

富山 一夫（ライオンズクラブ・羽咋ブランドの会）

千里浜の浸食を止めるには

私は羽咋市の千里浜に生まれ育っております。羽咋といっても、「羽咋ってどういう字を書くの」「どこにあるの」ということが多いですけど、千里浜といえっけこう知名度がありまして、羽咋ということとイコールとされるような時代になってきました。

実は、その千里浜の浸食のことですが、10年ぐらい前の写真と比べますと広さに大分差があります。最初に浸食を感じたのは、昭和55年災害のときです。今浜から千里浜海岸までほとんど浸食されまして、全然波のないときで、波打ち際から海岸の山までひどいところは8mしかありませんでした。その後、どうなるのかなと危惧していましたが、少しずつ自然に戻りまして、今から13年ぐらい前にはけっこう増えてきました。ところが、その後どんどん浸食されまして、見てのとりの海岸です。大体波打ち際から30m、広いところで40mぐらいの浸食の状態です。

それで、我々の手で、いろいろな自然科学、あるいは土木工学における保護ができるのか、それから、地元においてどういう手を加えたら、元に戻るということは分かりませんが、維持ができるのかという提案です。

もう一点は、千里浜といえばハマグリ如潮干狩りで大変にぎわった時期がありました。かれこれ30年も前だろうと思います。今では全部なくなったのかといえば、そうではなくて、その年々によって若干わくといっておかしいですが、幼貝が多くなったり、またいなくなったりということがずっと続いています。それをうまく養殖とかの方法で、昔のように千里浜へ行けば潮干狩りができるということが可能なのかという質問です。



話題提供2 地域から

松本 政文（クワイ生産組合）

クワイの薬効分析を



神子原のクワイは、昭和55年ごろから転作作物として神子原地区に導入されました。現在、140アールで14名の方が栽培しています。近年はクワイ祭りを行ったり、学校給食に食育ということで導入されるようになりました。子どもたちも、芽が出ているということですからごく興味を持ち、喜んで食べています。

クワイの成分の特徴ですが炭水化物、リン、鉄、カリウムなどが多いとされています。しかし、薬効成分というものがない

明らかにされておりません。今日は、クワイを持ってきて、この機会を利用して先生方に成分を調べていただきたいと思いますとお渡ししました。

私たちが高齢化の中、苦勞しながら作っております。何とか神子原の特産を守りたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

話題提供3 地域から

田尻 昭夫（JAはくい監査役）

新たなブランドづくり

農協の理念というのは、個人で、経済的にも非常に弱い立場にある人が、それぞれ力を合わせてお互いの幸せをつかんでいこうというものです。私は30年農協に勤めていますが、この理念に非常に惚れ込んでいますし、自分の職場にも誇りを持っています。

私は神子原地区に住んでおります。神子原米については、市の1.5次産業の「山彦計画」、また、JAの中期3か年計画の新たなブランドづくりの中で一生懸命取り組み、どうにか皆さんに知っていただくようになりました。

神子原地区は大変まとまっていて、何か一つやろうということになりますと、各種団体が一斉に協力して集まるという地域です。この神子原米をPRしていく、あるいは消費者交流を進めていく中で、棚田オーナー制度というものをしています。地域を挙げ、みんなでこの制度を維持していくように、皆さんに協力をしていただいております。

さて、お隣の七尾市で栽培しています中島菜は、非常に苦味があって、独特の食べ物らしいのですが、これが体にいいということになって、今栽培農家が4倍に膨れ上がっています。また、同じ七尾管内で赤い大根を作っています。この赤い大根は、大学と種苗会社と地元の人々の三者が一体となって開発したと新聞で紹介されていました。普通の大根と比較して、これも体にいいという文句が出ています。

我々はこの中山間地域の里山をどうしても守っていかなければならない中であって、神子原米だけでなく、もう一つ特色あるものを作っていきたいという考えがあります。ここしかないもので、しかも体にいいとPRができるようなものを、何とか大学と種苗会社、あるいは地域と連携して開発することができないかということで、よろしくお願いいたします。



松島 昌幸（文化財保護審議会副審議長）

妙成寺を国宝に

今日は文化財の部会長として、話題提供をします。今日は韓国のプレス関係の方も見えているとのことですが、実は、私のライフワークの一端が渡来系文化です。能登半島、特に羽咋には朝鮮半島からいろいろな文化、思想が入ってきた足跡がたくさんありまして、そういうことを少しずつ調べて文章にしたり、発表もしています。

妙成寺の国宝昇格運動については、ここ1～2年新聞などにも書かれておりまして、市民の関心も少しずつ高まってきています。私は観光協会の役員をしていまして、今から6～7年ほど前に、私が言いだしっぺになって、妙成寺の五重塔を中心として国宝にならないものかという問題提起をしましたが、前の市長のスタンスはあまり積極的ではなくて、そのままずっと推移していました。ところが、2年前に新しい市長が生まれて、この問題が積極的に推進されるようになりました。

昭和25年に文化財法が改正になって、今まで日本にたくさんあった国宝が重文になり、そのときに石川県内から残念ながら国宝の建造物がなくなりました。福井県には小浜に明通寺という三重塔の国宝建造物があります。お隣の富山県では、平成9年に高岡の瑞龍寺が国宝に昇格になりました。一方、百万石のお膝元の石川県には、実は国宝建造物が今もってないのです。建造物以外の国宝は刀と焼き物があります。いろいろ調べてみましたが、石川県でいちばん国宝建造物に近いのは、我が羽咋市の妙成寺、特に五重塔であろうということです。建てられた



のは江戸初期ですが、様式が室町で、あの高台で日本海の風雪に耐えうる非常に強固な造りをしています。そういう妙成寺を国宝にしたいというのが我々の念願で、気運が盛り上がっている最中です。

今、関西や富山県の建築学の教授のアドバイスもいただいています。これから地元の金沢大学の先生方からもご助言をいただき、妙成寺の国宝へ向けてさらなるご協力をいただきたいと思っています。

コーディネーター

川島 平一（金沢大学地域連携コーディネーター・客員教授）

高野 誠鮮（羽咋市1.5次産業振興室係長）

（川島） 今日は、羽咋市全般にわたっていろいろな話題提供をしていただきました。非常に範囲が広範にわたっていますから、皆さんからの意見をもらうとっと広がる可能性があります。前半はその範囲内で意見交換を深めて、後半は自由に発言していただき、最後にそれを大学に持ち帰ってどうできるかということを意見交換するという流れでいきたいと思います。



最初に、ぜひ大学から一言欲しいという話が話題提供でいっぱい出ましたので、これに関係する教授、あるいは関係スタッフから話をさせていただきます。

話題提供1の富山さんについては、石田先生から一言コメントと、今後の方向付けについて、トップバッターでさせていただきます。2番めの松本さんのクワイの話は、薬学とかの共同研究の話だったのですが、薬学部の教員は今日は来ていないので、知的財産ということになりますが、共同研究センターの平野さんにご発言いただきたいと思います。田尻さんから出ている話は、私の専門が農学なので一言しゃべりますけれど、五味先生に一言お願いしたいと思っています。文化資産は、文化系の先生方が今日はいろいろな都合で来ておられないので、これは副学長に答えていただこうと思っています。

では、石田先生からお願いします。

深刻化する千里浜の現状

（石田） 千里浜に関しては、昭和57年だったと思いますが、石川県庁の依頼で千里浜を守ってくれということで浸食を止めに入りました。そのときに、「構造物を入れろ」とかいろいろな話があったんですけど、それは全部やってはいけないということで抑えて、滝港の浚渫砂を千里浜に戻してくださいということで、20年以上それを続けてきまして、現在まで何とか持ちこたえていたんですけども、25年間で25m浸食して、平均で1年に1mずつ後退しています。



放置しておくと、20年ほどでなくなってしまうという言い方にもなりますが、まだ未来のことは分からないけれど、とにかく今手を打たなければいけないのですが、石川県のお金がなくなりました県単独ではできないと、それで、国にお金を出してくれということを申請していますが、国のほうは砂を入れるだけではだめだ、構造物を入れないとだめだということで予算が下りないのです。構造物というのは突堤、離岸堤、人工リーフというもので、これをやらない限り何もできないところまで追い詰められました。

砂自体はあります。昔、2mぐらい海が高かったときに、現在の後ろの砂丘というところは

実は海底の砂だった、あるいは風で飛んだということもあります。千里浜の砂は0.2ミリ以下の細かい砂です。したがって、車が走れるので、よそから砂を持ってきてもだめなわけです。自前の砂しかないのです。そうすると、沖のほうに沈んでいる海底20～30m、50mの砂を持ってくるか、砂丘の砂を入れるか、どちらかしかないのです。そうしないと、なぎさドライブウェイは維持できません。

今までは滝港の砂が持ってこられたが、もう滝港の砂もなくなりました。したがって、砂丘の砂を入れるのがいちばん安くつく。だけど、その砂を入れるお金がなくなりました。したがって、構造物を入れざるをえない。人工リーフを入れようかなという、とうとうそこまで手を入れなければならなくなりました。どこに入れるかということですが、なるべく手を入れたくないので、今浜のなぎさドライブウェイの入り口あたりに少し人工リーフを入れて、砂が逃げない格好にして砂丘の砂を入れる。それを、国からお金を持ってきてやるしかないかなと考えております。委員会で結論を出します。

薬効分析を約束

(平野) 今日は薬学部の教員が来ておりませんので、私からまず薬学部の太田富久教授がこの手の分析をたくさんしていますので、議題に持ち込みたいと思いますが、神子原のクワイを10個ぐらい持って帰りたいと思います。私もクワイが好きですので、まず私が好きになることが大事だと思いますので、ちょっと余分に入れていただければ(笑)。

それから、児玉先生は金時草の分析をして、効果があることを判定している先生です。クワイのことはそう時間がかからずに分析してくれると思います。



(川島) これは私の専門なので、簡単にコメントしておきます。中島菜は、私が昔、県の農業試験場に勤めていたときにやっていた仕事です。だから、協力できると思います。今、太田教授の話が出ましたが、日常的なつきあいがありますので、平野先生と一緒につなぎと後のサポーターをぜひやりたい。クワイについても、神子原を中心とする羽咋の野菜のブランドについても、品種改良までやれということはなかなか簡単ではないですが、少し手伝えることはあると思います。具体的な相談は高野さんを通じてやっていきたいと思います。

今のことも含めて、3番めの話題について、五味先生、お願いできますか。

既存文化の発掘、再認識も

(五味) 実は、私もかつて中島菜の調査をしたことがありますが、栽培適地は旧の中島町の本当に狭い範囲のようです。同じく、七尾市には非常に軟らかくておいしい太いごぼうがあります。そういう各地に特徴のある野菜がありますので、品種改良もさることながら、まず皆さんが実際に栽培しているもので、自分たちだけではなくてほかの人が食べてもおいしいようなもの、その料理法をまず自分たちで探し出すというか、そういった試みが必要ではないかと思っています。「こんなものは我々がいつも食べているしあたりまえだ」と思っているかもしれませんが、その普段おいしく食べている料理の方法とかもぜひ発掘していく必要があると思います。

神子原米の栽培の田んぼはどんな状態になっているのでしょうか。その際の水はどうしているのかということも、ぜひ教えていただきたいと思います。

(川島) 五味先生の質問に対して、神子原のどなたかご発言いただけますか。棚田ということとは皆さんは分かっていますが、水の話と栽培方法の特徴です。

(近藤) 神子原米を栽培しています近藤です。神子原はほかの土地と違って急傾斜で、標高150mぐらいのところで栽培しています。土地の寒暖の差とか、水を入れてもすぐに抜けて、また新しい水が交代に入っていきますので、それがおいしい米を作る基本となっていると思います。もう一つ、ほかのところでは10キロ以上を取るような作り方をしているところを、量を少なくしておいしい米を取るというシステムでやっています。

(高野) 今年、リモートセンシングといって、人工衛星を利用して、お米の生育あるいは泥流に含まれるたんぱく質の含有量を刈り取る前に測定するというのを、1反歩当たり200円台で実用化したわけです。

これについては、来年、韓国の白菜を分析していただけないかというお話が舞い込んできています。白菜にはオリゴ糖が含まれておりまして、それを成分として乳酸菌を発酵させて、そしてキムチを作るということで、今日は韓国のプレスの関係者にも来ていただいているのですが、韓国からそういった打診があり、ぜひそういう共同研究をできないものかということで、こちらのほうからの提案とさせていただきます。

(川島) 共同研究についてのコメントは、中村教授に後でお願いします。

文化遺産に関する妙成寺について、橋本副学長からお願いします。

市民運動が妙成寺の国宝への鍵

(橋本) 今日は建築の先生は列席されておりませんので、簡単にお話しします。

確かに松島さんをご指摘のように、石川県に国宝建造物がないことは大変に残念です。15年ほど前に金沢大学があった旧金沢城の石川門は、戦前は国宝でありましたが、重要文化財に格下げされました。私の考えでは、妙成寺を国宝にするのは住民運動、市民運動の盛り上がり、そしてPRがぜひ必要だと思います。



世界遺産国内登録が始まって二十幾つ出ました。金沢を中心として世界遺産登録をしようということで、金沢ではかなりいろいろな取り組みが始まりました。結局、これは自治体、県や市が音頭を取ったとしても、住民がそれを認識してPRに参加しないと僕はだめだと思います。世界各国の世界遺産の動きはそうです。金沢経済同友会が始めている金沢検定というものも金沢のPRだと思います。こういうことを通じて金沢を認識して、いい町を世界に売り込もうという手順になっているので、やはり妙成寺を愛し、これがいいと思う、そして、いちばんよくご存じの住民の方が運動を盛り上げ、そして全国に妙成寺のよさを工夫してPRしていくことに取り組んでいただければと思います。

(川畠) 話題提供していただいた方々に対する、大学側のとりあえずの答えをさせていただきました。たぶんそれでは不足だとか、こうしてほしいとか、さらに追加の意見があることは分かりますが、ほかの方々にも若干ご発言いただきたいと思います。

これまで全般的な話の中で、特に自然の問題がかなりあるものですから、金沢大学でいちばんはじめに橋本副学長が申しました自然学校の主宰をしている中村教授から、先ほどのリモセンの共同研究の話も含めて、一言コメントをお願いします。

(中村) 今日大変印象的なのは、すごく活気があるということです。それは何かというと、ずいぶん若い方や女性が多くいらっしゃるということです。大変うれしく思っています。

今日の市長さんのお話を伺いますと、大変自信にあふれていて、大きな財産があるはずだから、それを発掘するような羽咋イズムでいこうじゃないかということでした。もう一つは山彦計画、海彦計画をやっている。里山を大事にして海を大事にする、里海を大事にするということです。それから、1.5次産業というもので、国や県からお金を取って、すごく働いています。ただ、それと同時に、市長さんがおっしゃったのは、元気に活力を保っていきたいが、過疎化の問題や高齢化の問題がある。

もう一つは、眉丈山に昔トキがいたけれど、今はもちろんいないわけです。それから、まつたけ山でまつたけが出なくなった、千里浜でハマグリがあまり採れなくなったという話で、すごくポテンシャルがあり、自然もいいし、歴史もあるし、いろいろなことができるんですけど、現実には里山がいいとばかり言っておれないようなことがあちこちで起こっているのだろ

うと思います。それに具体的に、今何をしたらいいかという特効薬がないわけです。大学に石田先生のような、千里浜のことについて経験のある方がいらっしゃいますが、今言ったような里山、里海をどうしたらいいかということについては、だれかにお願いしたらできるということはそんなにないと思います。ですから、自然資源、里山、里海がどんな状態にあるかということは、特に農業、林業、水産業をされている方は身にしみて感じておられると思います。それをもう少し一般的に、できれば市民の方も参加して、里山・里海健康診断調査をする、そういうことをやっていきながらみんなで問題点を理解するようなことがいると思います。

そういう方法は、大学が「こうやったらどうか」ということではないと思います。私たちはある程度の知識はありますが、ほかのことは知らないのです。ですから、どういうふうにな何を調べたらいいのか、こういうものが特に少なくなっているとか、そういうことについてみんなで相談して、できるだけお金をかけずに、特に農業をされている方、林業をされている方、水産業の方の経験を活かして、むしろ提言して教えてもらう、そういうことをやりたいと思います。ですから、どういうニーズがあるか、どういう情報が伝わっているかということをお互いに教えていただいて、それで大学でだれが本当にできるのかということです。お互いにメリットがないと続かないです。大学のニーズというのは、恐らく大学にいる学生の教育です。今日はお見合いみたいなもので、初めてお互いに顔を知ったわけです。ですから、今日はスタートです。この次にどのように話を続けたいかということに、ぜひつなげていただきたいと思います。

それから、リモセンの話は、私は実は昆虫の研究者でして、全然分からないのです。金沢大



学の中には何人も、リモセンとかGISの情報分析の専門家がいらっしゃいます。今日はいろいろなことがあって来られなかったのですが、そういう方を交えて今度専門的な話をさせていただければと思います。

(川畠) ここで、フロアからいろいろな追加注文、意見がある方が多いと思うので、この土地に詳しい高野さんにお任せすることにします。

(高野) 今、どぶろく特区とかの特産を幾つか取っています。特定農業者であれば、1リットルからでもどぶろくを造ることができるということで、今日は生産者の高澤さんがお見えになっています。おいしいどぶろくを今造っておいでですが、これに対していろいろなご質問、提案を受けたいと思います。

(高澤) 去年どぶろく特区になりまして、今年の8月から許可を得まして9月から造り始めています。今、悩んでいるのは、百貨店のバイヤーは、「どぶろくは密造酒だ。うちでは売れない」という話で、ちゃんと許可を得てやっているということで納得してもらったんですが、その定義たるものを今日お見えの先生方にお聞きしたいのです。

実は、今日どぶろくを用意しておきましたので、この会議が終わりましてから、まず、商品を選んでいただいてご提案いただければありがたいと思っています。何とか若い人に飲んでいただきたいということが目的です。「これが本物のどぶろくだ」という定義がないものですから、それをいっぱい飲みながら教えていただきたい。

もう一つ、米麴のみで造っている1.5次産業の最たるものです。実は地下水、自家水で当初は造っていましたが、非常に腐敗が早い。しかたなしに上水道の水を使ったら非常にうまくいきました。地下水も分析していないのですが、どういうふうにかこれからしたらいいでしょうか。

(川畠) どぶろくについての定義とか、あるいは機能性の評価とか、微生物とか水の問題については、今日は専門家はいませんが、大学でつなげるところもありますし、私が知る限りでは、県立大学が野々市にありますけれど、そこで発酵の専門家の先生を何人か知っていますので、後でどぶろくを飲んでから考えましょう(笑)。

(高野) 羽咋市の上水は非常に素晴らしいというお話でした。先ほどかき貝のお話も出てまいりました。1.5次産業振興室の室長が、実は不用となったかき貝のアイディアについて多少意見を持っていますので、それを一つ提言させていただきたいと思っています。

(池田1.5次産業振興室室長) 私も、神子原の少し下のほうで農業をやっているわけですが、試験的に非常においしい、神子原に負けない米づくりをするためにはどうすればいいかということをお互いに研究しています。その中で、私は薫炭を使っていますが、かき貝から出るカルシウムを何か利用できないかということで、実は市内の業者をお願いして、不用になったかき貝を全部もらっています。それを田んぼの水口の中



心に埋めて、じわっとかき貝が溶けてカルシウムが田んぼに流れることによっておいしい米作りに役立つのではないかという考えを持っています。そのときには、中干しをしないような、水を溜め放しにして、少なくなったらまた入れるという作り方をしています。参考になるかどうか分かりませんが、そういうふうにして神子原米の食味の向上に役立てばいいということで研究しています。

(高野) そのかき貝を使って川の浄化ができないかというお話もありました。これは炭素繊維と多孔質であるかき貝に含まれているバクテリアを利用します。駅前商店通りの食堂でもかき貝の殻を捨てる場所に困っているということがあります、そういう利活用ができないのかということです。

自由討論ということですので、羽咋の山彦・海彦という二つの資源調査に関して、昨年からはご協力いただいています農水省アドバイザーの高木先生が本日飛び入りで来ています。何か一言ご提案をいただきたいと思います。

(高木アドバイザー) 今日はこの素晴らしいパワーに圧倒されています。本当に、こんなにいい話し合いの会というものを僕は始めて見ました。

最初に市長さんが、羽咋市にはたくさん財産があるというお話をしたと思います。僕も、何回か来させていただいて、非常にたくさんあると思います。本当に素晴らしくて、うらやましいぐらいです。海においしいものあり、山においしいものあり、文化財も揃っている。だけれども、これを皆さんが全く活かしていないのです。活かし方が分からない、活かす順序が分からないということだと思います。

今回、金沢大学の先生方も協力してくれるということなので、ぜひこの全国に誇る財産、それからおいしいもの、うまいものを全国トップクラスにできるように、これから10年間、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。たぶんこういう会議ができるということは、必ずや羽咋市はあと10年後に全国トップレベルになっていると思います。信じていますから、ぜひ頑張ってください。

(高野) それでは、ブランドの会からほかのメンバーの方もおいでになっていますので、遠藤さん、ご意見がございますか。

(遠藤) 私の専門はインターネット関連です。この神子原米のブランド化という中で、インターネットを活用したいという思いもありましたが、またその取り組みの方法がなかなか難しいという思いを持っています。もし、金沢大学のほうで専門の先生がいらっしゃいましたら、そういうブランド化をインターネットにどのように載せていくのかということをお聞きしたいんです。

(川島) 具体的な質問が出たので、これは地域連携コーディネーターだと思いますので、そのあたりを若干手掛けている、我が同僚の宇野さんから一言コメントしてもらいます。



(宇野) 先月26日に、経済学部の飯島教授を含めまして、テレビ媒体を使ってeコマースをどうやっていくかという研究会を2日間にわたってやりました。その中で、実は今全国のテレビ局は、自分たちが育てたブランド商品を各地で探しています。今までテレビ局は電波と時間を売って勝負してきましたが、だんだん広告収入がインターネットに取られていくものですから、いわゆる広告外収入をどう増やしていくかということで、自分たちでブランドを育てて、それを全国に発信して、そのマージンを取っていく、そのような戦略を各局が競っています。

例えば、この石川で北陸朝日放送が「金沢屋」というのをやっていて、あそこに100アイテムの商品が並んでいます。そういうブランド戦略を展開しているところとお話をされることが一つの手としてあります。テレビ局の場合は系列局があり、「これをやりたいんだ」ということで金沢のテレビ局が手を挙げますと、北海道でも沖縄でもやることになるという一連のリレーションができるので非常に面白いと思っていますし、彼らも育てるブランドを探していますので、コーディネートしたいと思います。



(高野) 本日、神子原のそばとかお米、「客人（まれびと）」というお酒の酒かすを素材としてお菓子やさまざまな商材、商品開発をされている岡島さんが見えになっていますので、一言お願いします。

(岡島) ブランドの会の岡島です。駅前商店街のお手伝いをしています。年に何回か、金沢大学の先生が薬師の水がすごくいいという研究をされているということを聞いています。水の薬効成分、効用も含めて、何か教えていただければ幸いです。

もう一つは、羽咋市にはいろいろないいものがありますが、この羽咋の点と点を結んで、線で面で、市内のネットワークづくりとか、ブランド化が連携してできるような地域の組織ができたらいいいという思いもあります。

(Q1) 私は羽咋の千里浜に住んでいる者ですが、千里浜が浸食しているので迂回をしています。県で浸食の会を2回以上されたと思いますけれど、羽咋でも一度、千里浜の住民も含めてすれば、もう少し皆さんの気持ちも盛り上がるのではないのでしょうか。橋本先生もお話しされましたけれど、地域住民、市民がいろいろな意味で知って、PRすることにもなると思うので、そういうことを羽咋でもしてもらいたいと思います。浸食についても、インターネットで流せば、ほかの人ももう少し勉強になるんじゃないかと思いますが、こういうことはいかがでしょうか。

(川島) 石田先生、一言コメントをお願いいたします。

(石田) 12月26日に千里浜委員会がありますが、これは県が全部アレンジするので金沢でやると思います。千里浜でやればいいんですが、そのセットを県がしていないので、こちらで説明せよということであれば、個人的であれば私がいつでも出て行きます。インターネットに載せるのは、私は忙しいのでできませんが、3月には青年会議所から説明に来いと言われていきます。幾らでも出ていきます。

(川畠) 服部先生、世古先生から、今までのことの全体的なコメントなどを一言で。

(服部) 私は羽咋市で毎月、男女参画の講座に加わっていて、大変勉強になっています。羽咋市の女性のかたは大変パワーがあると思っています。ぜひ、町の活躍の場に、もっと女性のパワーとか若い人たちのパワーを活かしていけばいいのではと思っています。国立能登青少年交流の家なども、もっと有効に使ったらいいと思っています。



(世古) 私の専門は協働、パートナーシップ、NPOのことです。大事なことは、地域の自治的な組織をどういうふうにつくっていくかということだと思います。今日はいろいろなつぶやきがありましたが、それを形にして、思いを仕組みにしていけるような、そういうコーディネートのお手伝いができればと思っています。



(川畠) 今日特別参加していただきました神戸大学の加古先生、ブランド化とか神子原米についてのコメントをお願いします。

(神戸大学・加古) こういう熱い会があって、うらやましいなと思っています。神子原米のような素晴らしいブランド化をより発展させていけることが一つのポイントではないかと思っています。



兵庫県では、コウノトリが住める自然環境、具体的には農薬とか化学肥料を抑えて、コウノトリのえさになるものが年間としてあるような農業をやろうとしています。そこで育てたお米を、「コウノトリの郷米」という形でブランド化したということで、これは非常に高い値段で売れているということです。イメージ、環境をよくして、美しい自然を農産物のブランド化に結び付ける、それで所得を上げるという方向が、これから一つの重要なヒントになるのではないかと思います。

それから、1.5次産業というお話は素晴らしいと思いますが、私どもの大学は都会ですので、6次産業(1×2×3)といって、農産物を作って、加工して、それで売っていかうとしています。そうすることによって地域に落ちるお金、特に農家に落ちるお金を増やしていくということで、例えば、お父さんが牛を買って、お母さんがチーズを作って、レストランもやって、結婚式場もそこでやってしまうという例があります。そういった新しいタイプの農業経営ではなくて家族経営、それがまた一つのブランド化ということで新聞に取り上げられるわけです。

今日は、いろいろと勉強させていただきました。

(川畠) 最後に松島さん、文化資産に割く時間が非常に少なくて恐縮でしたが、一言だけ再注文がありましたら。

(松島) 市民の盛り上がりはもちろん大切ですが、そのためにはどうしたらいいのかという

ことで、大学からの人的あるいは能力的なアドバイスを期待しています。

最後に、羽咋名物の岩がき、夏がきと歴史の話を少しだけさせていただきます。今から3年ほど前に、大河ドラマの「利家と松」がありました。あの後半に、越後の上杉謙信の後の景勝が、秀吉に拝謁するために大阪へ行くのですが、金沢地方で一晩泊まります。利家と松が接待するのですが、その食事に能登の岩がきが出され、「これはうまい」と上杉景勝が食べているシーンが非常に大きく出ています。時代考証をやった人に後で話を聞いたら、実はあれは「羽咋の岩がき」と言おうかという線を提案していたのですが、NHK側が「これは能登の」ということになったそうです。そういう歴史と羽咋は因果関係がありましたことを、一言申し添えておきます。

まとめ

(川畠) 最後に、簡単に三つ言います。私は、今日は話題になったテーマでいうとブランド化、あるいはブランドにまつわるいろいろな新商品開発の話が非常に大きなテーマになったと思います。もう一つは、これが基本ですけど、地域の自然と文化遺産を見直してどう活かすかということを積極的に前向きに考えようという提案です。そのためにも、これは市長の言葉をそのまま使えば、人ですね。皆さん方自身にも、どう活かすかという工夫が必要です。さっき世古先生が一言、最後にちょっと熱い思いを込めてPRだけで終わりましたけれど、世古先生を使うのも一つの手だと私は推薦しておきます。

もちろん金沢大学の教員の数はすごいですけれど、それぞれ専門があって、皆さん方が実践的にすぐに役に立つという学問は必ずしも十分でないかもしれません。しかし、大学陣は今皆さん方へ本当に目を向けているということを、私は最近大学に入ったんですが感じます。ぜひ、そういう雰囲気をもっと利用して、それこそ県内の大学ですし、国立大学としては金沢大学はそれだけの実力を持っているわけですから、ぜひご活用いただきたい。高野さんが提案されたリモセンの話も、クワイや機能性野菜の分析、具体的な話が幾つかありました。これは、必ず取り組みをすると平野先生もおっしゃいましたし、私もサポートしていきたいと思っています。

幾つか具体的な提案がありました。これはやれるというものも今日出たと思います。そういうものを作って、やれるものからやるということだと思います。そういうことを私が約束する立場ではないですが、それぞれつないで大学と連携する、民間の「民」と学問の「学」、大学の「学」もつけて「民学連携」という言葉を使いたいのですが、これを羽咋で必ずやりたいと思っています。



閉会挨拶

本吉 一寛（羽咋市助役）

今年度の金沢大学のタウンミーティングを羽咋市で開催していただき、橋本副学長をはじめ、多くの分野の専門の先生方にご参加いただきましたことに対して、厚く御礼申し上げたいと思います。また、今日はいろいろな地域活性化のためのご提案といたしますか、ご意見があったわけですが、それに対していろいろとご指導、またお話をいただきました。重ねて、お礼申し上げたいと思っています。

こういったミーティングで大切なことは、単に意見交換をするだけではなくて、今後この意見交換を通じて、より大学と地域の連携を深め合って、今日お話が出ました事柄の一つでも多く大学の連携事業として取り組めるように、大学も地域も羽咋市もお互いに努力することが大切ではなかろうかという印象を受けたところです。しかしながら、私は、羽咋市のことを金沢大学はちゃんと面倒見てみるといったことを感じた思いがいたします。

最後になりますけれど、今日議論したことが一つでも多く金沢大学の連携事業に取り上げられ、そして今日参加していただきました多くの皆さんのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。



資料 1

日 程

開催地域	羽咋市
日 時	平成18年12月1日(金) 19:00~21:00 (2時間)
会 場	コスモアイル羽咋 研修室 (羽咋市鶴多町免田25番地)
主 催	金沢大学
共 催	羽咋市、金沢大学・石川県・金沢市連絡協議会
大 学 側 出 席 者	橋本、由良、中村(浩)、佐川、川畠、宇野、中村(晃)、赤石員、服部、小柴、濱、橋爪、山本(以上社会貢献室)、瀬領、平野(共同研究センター)、五味(教育学部)、石田(工学部)、久保(理学部)、世古(人社環研)、古田(経済学部3年)、宇都宮(研究員)、高橋(理学部3年)計22名

プログラム

テーマ：「地域と大学、連携する未来」

プログラム (19:00~21:00)			
19:00 ~19:15	15分	挨拶・話題提供 (金沢大学から)	橋本哲哉(理事・副学長)
19:15 ~19:30	15分	挨拶・話題提供 (市長から)	橋中義憲(羽咋市長)
19:30 ~19:35	5分	話題提供(地域から)	富山一夫(ライオンズクラブ、羽咋ブランドの会)
19:35 ~19:40	5分	話題提供(地域から)	松本政文(クワイ生産組合)
19:40 ~19:45	5分	話題提供(地域から)	田尻昭夫(JAはくい監査役)
19:45 ~19:50	5分	話題提供(地域から)	松島昌幸(文化財保護審議会副審議長)
19:50 ~19:55	5分	(休 憩)	
19:55 ~20:55	60分	意見交換会	コーディネーター：川畠平一(金沢大学) 高野誠鮮(羽咋市)
20:55 ~21:00	5分	挨拶	本吉一寛(羽咋市助役)

出 席 者

127名

資料2：アンケート結果

【タウンミーティングの内容・運営等について】

■羽咋の資源を再認識することができた。

昔の羽咋を思い出しました。問題点が洗い出されて良かったです。／良かった。解りやすく、また、的を絞った進行で理解しやすかった。羽咋市のよさを再認識することができた。／羽咋市を再発見できたように思います。／羽咋市の情勢とか問題とかがいろいろな分野の人から聞けるいいチャンスで参加して良かったです。／地域にたくさんの財を生み出すとはとても良い意見交換の場である。／忙しい先生方が良くこれだけの人数おいでいただけたと驚きました。地域との連携に本気になっていることだと受け止めました。地域の活性化につながって欲しいと望んでいます。千里浜の侵食問題がここまで議論、検討が進んでいるのだと初めて知りました。県は中間情報をもっと出してくれても良かったのではないかと思います。／

■内容について

できれば教授一人でも良いのですがもう少し小さい会場でひざを交えて話をしたほうが良い。／短い時間で仕方がないのかも知れませんがもう少し幅広い問題を扱ってほしかったです。人文・社会科学系の教授の参加を望みます。／少人数で多ブロック深く掘り下げた内容で今後も開催されればどうか。／事前の知識のないまま参加しました。その立場で言うなら「里山」などの自然環境や物づくりだけでなくもっと人文的活動もほしかったです。／関係者しか話をしていない・話題が狭い・質問の回答がない・一部地域の人だけのタウンミーティングか？・後日のアドバイスがあるのか不安。／一般参加者の発言がもっとあればよい。／ミーティングの内容、運営については非常に濃い内容であったと思う。また、大学の先生方と意見交換する場がほとんどないため、今後もこのような場を増やしてほしい。／話題提供の内容を事前に公表してはどうか、一般の人からの意見が少ないと思う。会場に来られない方の意見は必要だと思う。／今回の内容が農学やブランド化ばかりであった。／話題提供に対する明解な答えが聞くことができたと思います。／

■運営・会場について

運営もまあ良かったです。(ペアで進行なので)でも机の配置はちょっと？でしたが。(でもこの方がいいのですか？)。／グループワーク形式に机が配置されていることで、話を身近に聞くことができて良かった。参加しているという意識が持てたと思う。／会場がせまくて、しかも島席になっていたため、話を聞きにくかったです。／席がたりない、時間と人員がたりない、休日にやるべきである。／大学側、羽咋市側、一般など分けたほうが良いのでは(席)どのグループが多く出席しているのかがわかる。／内容、運営について初回にもかかわらず良かった。／大変スムーズな進行であり、好感が持てました。／初めての参加でわかりませんが大変参加して良かったです。運営もよろしいと思います。／良かったと思います。／とても活気があり、とても良かった。／良かったと思います。／良かった。／

■時間が足りない

時間が短いので内容が多く消化しきれない。／時間がいないために(もしあれば)つまこんだ議論がしてほしかった。／時間が短いと思いました。／もっと自発的な意見を取り上げられる時

間的余裕があればよかったのでは。／時間の配分の関係上急いでいた部分もあり、もっと参加者の生の声が出なかったのではないか。／時間が少なかった。／時間が足りない、質問の数を少なくして。／時間が少ないです。／時間をもう少し長く。／良かったですね!!もう少し時間があつたらな～。／もう少し時間があつた方がよいと思う。／時間が短く、参加者の自由発言が1つしかなかったのが、とても残念。／実のある会合でとても良かった。今後につながる会となる、ことを信じています。もう少し時間があるともっと良かったね。／

■その他

財産を生かす。羽咋に住んでよかったと思える事。ブランドが沢山出来る町にしてください。市長さん頑張ってください。／問題提起した事項について回答は大学に持ち帰るということだが、今回参加した方々にその回答は行きとどくのでしょうか？また、もっと若い世代が参加するべきでは。／普段の大学教員と違った一面を見せていただいた。／大学の存在そのものを身近な「生活」一部としてとらえることができました。ありがとうございます。／地域に目を向けて協力をしていることがわかった。／一回で終わらずたびたび開いてほしい。／論議した内容などわかりやすく、羽咋のために大学の協力を大いにいただきたい。今回だけでなく何度もして欲しい、又結果を公表されるように。／毎年開いて欲しいと思う。一度の参加ではなかなか深められないので、生涯学習の意味も含め、是非毎年。／一回で終わらないで、続けて欲しい。／今後に期待。／期待しております。／

【金沢大学への具体的な要望・提案・期待などについて】

■要望・提案

大学と自治体が一緒に企画して、羽咋で人材開発講座を開催できませんでしょうか？いま発言された内容をすすめるための基礎学習になると思います。／地元産物の地元消費の傾向カキ貝殻のように食物の廃棄物の活用でゴミ量↓への研究。／国立能登青年交流の家との連携でタウンミーティング等の開催をしませんかミーティングの設備・宿舍等の提供できます。／大学にもっと国立能登青年交流の家を活用して欲しい。そのため生徒に直接広報できる場をできる限りつくってほしい。／羽咋市の東部(神子原町の約3km下流に)養豚場が2施設あり、国道415号を通る車両や近郷集落から悪臭に対する苦情、又そこを流れる2級河川の汚染が発生しています。以前より改善されたものの解決には至っていません。調査しても規準内であると言われていますが、邑知地区町内会長会で毎年現地調査して養豚業者と協議していますが現在にいたっています。悪臭対策と汚染防止の解決法はありませんか。／石川県の名産(魚介や米等)のイーコマース事業の提案。／米、白菜に対する解析と大学との共同研究を実施する予定であります。羽咋のイメージアップにつながると思います。／私ども中部航測は主に測量業務に携わっておりますが新技術にもいち早く目をむけ、本タウンミーティングでも話題になったリモートセンシングも取り組んでいます、またGIS部門も取り組んでいます。そこで弊社に金沢大学様のお力を貸していただき共同で開発できれば幸いかと思います。／地域(当市)が金沢大学と連携をということが以前では考えられなかったようでとてもいい企画と思いました。くわいの成分とか侵食の対策とか「どうしたらいいのか?」「どこで調べてもらえるのか」など住民(地域の方)が解らなかったともこんな身近なところで聞けるのが(大学の方々に)驚きと同時にうれしい限りですね。でも時間が短かったですね。市民のパワーが羽咋のブランドを産

むという事には同感ですね。女性のパワーもどんどん使ってほしいです。／羽咋のブランド化
自然豊かな意見に多くの協力お願いいたします。／地域（羽咋の里山）を是非見てください
（学生の農業体験含みます）。／地域活性化するために、小中学生から意見を求めるようなタウ
ンミーティングの実施を、子供たちと地域にあるよさを見つけることも大切ではないか。／

■期待

「大学や学術機関」との協力活動を今後も推進期待したい。／羽咋市に関係する事はできるだ
け羽咋を会場にして少しでも市民参加が得られるように願いたい。地域と歩む大学に。／今後
ともどんどん地域間交流をしてください。／まちづくりといってもいろいろな分野があります。
歴史景観（妙成寺etc）を生かした街づくりをどうすすめれば良いのか、今後に期待しま
す。／これほどまでに総合的に地域と関わろうとしている姿勢に感動した。地元の住人として
も少しずつ関わりたい。高野さんをはじめ関係の皆様、お世話様です。頑張りましょう。地元
の人々にもっともっと呼びかける必要がありますね。／今後もパイプを太くする様、こまめな
コミュニケーションを計りたい。／意見交換で終わらず実のあるよう協力してほしい。／